



じぶんの町と良くするしくみ。
赤い羽根共同募金

“みんなでつくろう！住みよいまち！”

地域なんでも情報局

第20号

平成27年9月11日発行

長崎市社会福祉協議会
長崎市上町1番33号

TEL: 828-1281

長崎の町を良くするしくみ
今年も十月一日より
赤い羽根共同募金運動が始まります！

アビリティィーからの
ありがとう！

毎年、多くの市民の方々にご協力いただいている「赤い羽根共同募金運動」が、今年も10月1日より実施されます。昭和22年、戦後間もなく全国的に展開された赤い羽根共同募金運動は、69回目を迎えます。長崎市で集められた「赤い羽根募金」は、長崎市内の保育園や障害者施設、NPO法人やボランティア団体、長崎市社会福祉協議会へ助成され、多くの社会福祉活動に使われています。その他にも長崎県内の社会福祉施設や団体へ助成されるとともに、福祉車両（赤い羽根号）の整備や大規模災害時の準備金としても蓄えられています。

12月1日から実施される「歳末たすけあい募金運動」で集められた募金は、長崎市社会福祉協議会に助成され、低所得世帯や重症心身障害児の方々への食糧支援、住民同士の交流や絆づくりを目的として地域で行われる年末行事などに使われています。

このように、赤い羽根共同募金は、子どもや高齢者、障がい者などを支援する民間の福祉活動や、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすためのまちづくりを力強く支えています。1枚の小さな赤い羽根に、たくさんの方の支えられている人がいることに思いをお寄せください。そして、長崎の町がもっともっと、良い町になるよう、今年もご協力をお願いいたします。

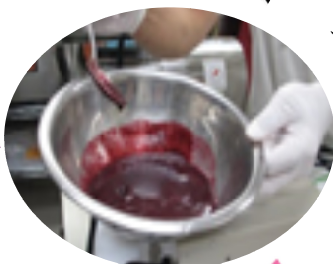
ありがとうメッセージ

八千代町バス停で下りると、甘い香りが漂い、目の前には「アビリティィー」という表示が見えます。店内には、美味しそうな焼き立てのパンやクッキーなどが並んでいます。障害者就労支援センターアビリティィーでは、身体障がい者や精神障がい者の方々の対象に、パン製造や販売、パソコン技能や清掃など多様な職業訓練を行い、障がい者の方々の就労を推進しています。平成26年度の赤い羽根募金の助成を受け、平成27年度に野菜や果物をペースト状にする自動裏ごし機と真空包装機を導入しました。富永施設長は「募金にご協力いただいた皆様の厚意を無駄にしないよう、障がい者の生活の自立に向けて有効に活用していきたいと思っています。また、安全で美味しいお菓子を作って市民の方に喜んでもらいたくと思います。新しい機械の導入が、障がい者の方々の新たな業務の確保と工賃の引き上げ、新商品の開発による収益の増大が期待されています。」



自動裏ごし機

ブルーベリーがアツという間に滑らかなペースト状に！



小さな子どもたちも、外で体をいっぱい動かして遊べます！



夏はやっぱりプール！
思いっきり楽しめるよ！

階段を上っていくと、子どもたちの賑やかな声が聞こえてきました。太陽の日差しが強い中、屋上一面には緑の遮光ネットが張られ、その下に設置されたプールでは、しゃぐ子どもたちの姿がありました。長崎市の中心部にある花園保育園は、平成26年度の赤い羽根募金の助成を受け、平成27年度に園児が戸外活動を行う場所に遮光ネットの取り付けを行いました。遮光ネットを取り付けるまでは、子どもたちの健康に与える紫外線の悪影響がとて心配だったそうですが、高比良園長は「この度、赤い羽根募金の助成を受けて、丈夫で性質の良い遮光ネットを取り付けることが出来ました。直射日光から子どもたちを守り、夏場でも涼しく安心して遊べるようになりました。募金にご協力くださった方々に感謝しております。」と話してくださいました。

花園保育園からの
ありがとう！

あの人！どんな人！こんな人！

岸川忠之さん 丸善団地



今回ご紹介する岸川忠之さんは、長年教員として教育現場での活動の後、現在は民生委員として活躍をされています。

岸川さんのお住まいの丸善団地地区は、一軒家やアパートなどが立ち並ぶ大きな団地で、坂の町長崎を象徴するような町並み特徴的な町です。岸川さんは民生委員として、担当地区内の一人暮らし高齢者の友愛訪問など、日々献身的に活動をされています。岸川さんのお話では、丸善団地も他の地域と同様に高齢化が進み、一人暮らし高齢者も増加傾向にあり、また、様々な事情で地域から孤立しつつある世帯も増えているように感じています。田舎で暮らしていた頃は、近所づきあいがたまにおっくうになる

時もありましたが、今となっては地域のつながりがいかに大切かということを感じています。岸川さん。だからこそ、自治会を中心として地域の行事などで住民同士が顔を会わせる機会を増やして、見守りや声かけなど普段からの顔の見える関係づくりが大切です。岸川さんは、普段から自治会婦人部の方々と高齢者ふれあいサロンのお世話をしていたり、きめ細かな高齢者の見守りを心掛けておられるそうです。「新米民生委員として何か活動が出来ているのは、自治会役員や婦人部などの周囲の関係者の方々や近隣住民の皆様のおかげで、ご理解とご協力のおかげです。」と語る岸川さん。誠実に謙虚な人柄が伺えるお言葉でした。

これから里山散策には、いい季節になりますね！



しく取り組んでおられるそうです。

丸善団地では、今年から自治会と市内の事業者が提携して、高齢者の見守りを兼ねた団地内での移動販売がスタート。毎週行われている高齢者ふれあいサロン終了後にも、会場である公民館がワイワイと会話をを楽しむながら買い物をする高齢者の笑顔であふれています。



移動販売は週2回

利用登録者宅には販売員による戸別訪問（見守りを兼ねて）も行われているそうです。

社協会員募集中!!

『地域なんでも情報局』は、市民の皆様からお寄せいただいた社協会費により発行しています。

浪の平納涼夏祭り

8月22日(土)浪の平小学校跡地において、「浪の平納涼夏祭り」が開催されました。この夏祭りは、夏祭り実行委員会が主催となり、今年で7回目の開催となります。毎年五、六百名程の参加があり、今年も地元の方をはじめ多くの方の参加がありました。夏祭りの開始は、夕方5時からでしたが、会場では当日の朝8時から夏祭りの準備に取り掛かる方の姿が見られました。大人から子どもまで幅広い年代の方々が集まり、会場設営から出店準備まで皆で協力して取り組む姿からは、浪の平地区の人々の絆の強さが感じられました。



浪の平地区青年会 浪の平地区青年会

そして、夕方5時の開演時間になると、盛りだくさんなステージイベントが開始されました。キッズコーラスによる明るく楽しい演奏から始まり、長崎大学龍踊部による迫力のある龍踊り、瓊浦高校エイサー同好会による凛々しい演舞など、どれも見ごたえのある素晴らしいステージばかりでした。また、その他にも、空手、演武やベリ、ダンス、フラダンス、盆踊り、ラムネ早飲みや抽選会など様々な催しが行われました。加えて、浪の平では夏祭り応援団として、地域の団体や企業による出店もありました。長崎市社協浪の平支部(以下、「浪の平支部」という。)や、高齢者ふれあいサロンつばき会からも、カレーやお手玉などの出品がありました。

翌朝の後片付け作業風景



皆様、お疲れ様でした！

大盛況のうちに終わった浪の平納涼夏祭りですが、夏祭り実行委員会をはじめとして、青年会、浪の平支部、子ども会、マリア園、消防団、地元企業など地域の各団体の協力があったからこそ成功のように思います。夏の祭りの翌日も朝8時から集まって後片付けが行われ、最後まで協力して皆で夏祭りをつくりあげようという思いが伝わってくるような浪の平の夏祭りでした。



カレー屋を出店した(社協)浪の平支部のみなさん

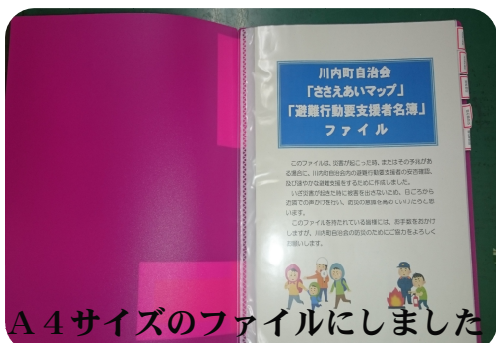
た。その他にも、浪の平地区防災協議会と長崎市消防局による防災体験や、長崎健康友の会による健康チェック相談、愛宕自動車学校の運転診断なども行われていました。

川内町自治会では今年、「ささえあいマップ」を作成しました。「ささえあいマップ」とは、地図上に高齢者や障がい者などの災害時に支援が必要な人「避難行動要支援者」(以下、「要支援者」という。)や、要支援者を支援する支援者等の情報を記載し、災害が起こった時などに、安否確認や避難支援を行うための手段として活用する地図をいいます。この「ささえあいマップ」は、自治会の皆さんが、今年の2月20日に川内町集会所に集まって作成しました。大きな自治会の地図を前に、要支援者と支援者を選定して地図上に落とし込み、自治会の防災への意識を高めました。そして、大判地図に落とし込んだ情報を、自治会の中で共有しやすくするために、今度はA4サイズの用紙に作り変えてファイルにする作業を行いました。ファイルの中には、要支援者と支援者宅の地図と、それぞれの連絡先や住所といったものから、自治会長や防災リーダー、民生委員の連絡先などといった、災害時などに必要と思われる連絡先や内容を盛り込んでいます。



大判地図に情報を書き込み

川内町自治会 ささえあいマップ 始動！



A4サイズのファイルにしました



このファイルを、自治会長や防災リーダーや各地区の班長、民生委員などが持ち、災害が起こった時等の支援に役立ちます。しかし、せっかく作ったこのささえあいマップも、自治会に住んでいる方の協力がなければ役に立ちません。自治会長や防災リーダーや民生委員がいくら頑張っても、災害が起こった時等に自治会内すべてに目が届くわけにはいきません。住民の方の協力には不可欠なのです。そこで川内町自治会では8月2日に、この「ささえあいマップ」を作ったことを、住民の皆さんに説明し、災害が起こった時等に備えて、普段からの声かけや住民同士の支え合いをお願いしました。今後、住民同士で話し合いを重ねて、川内町自治会は災害に強いまちづくりを推進していきます。



自治会の皆さんにささえあいマップの説明をしました

高齢者ふれあいサロン 開設状況

- ①週1回開催型・・・42箇所
- ②月1～2回開催型・・・85箇所
- ※平成27年9月1日現在



イチニサンシー

平成27年6月25日に開設された三原ふれあいサロン。毎週木曜日の午前中に三原町自治会公民館で開催中です。健康体操や脳トレ、スクエア活動など楽しく活動されています。

外海がもっと元気な町になるためには・・・！？



8月9日(日)に長崎市社協外海支部(以下、「外海支部」という。)による小地域計画「やってみようか！わがまちプラン」第1回策定会が神浦港そばのふるさと交流センターにて行われました。(左写真)

外海支部では、平成26年度に2回にわたり「やってみようか！わがまち座談会」と題して、日頃生活している外海地区のことについて、住民の皆さん同士で課題や現状を話し合いました。「やってみようか！わがまちプラン」は、座談会で明らかになった地域の課題や意見をもとに、自分たちの地域をより良くしていくため、地域住民による自主的な取り組みを示した、地域ごとの福祉のまちづくり計画です。この日は、外海の各地

区から策定委員のメンバーが集まり、「外海をより良くするために今後何に取り組んでいった方がいいのか？」をテーマに活発に議論が交わされました。今回の会議では、主に地区ごとで行われている夏祭りや伝統行事についての情報交換が行われ、「担い手不足という課題や、より一層の行事の発展を目指し、今後は外海地区全体での協力も視野に入れて実施していくことが大切だ」という話になりました。8月23日に行われた第2回策定会では、地域のつながりを強くする情報交換の方法などについて、さらに具体的な話し合いが行われるなど、活発な話し合いが引き続き行われています。



無病息災を願って！

牧野地区で行われた伝統行事『かずら引き』

長崎市社協外海支部

やってみようか！わがまちプラン

策定中！

